

若者の就業状況



4月になり、真新しいスーツ姿の若者が目につくようになりました。みなさんの職場にも新入社員が入ってきたかと思えます。そこで今回は「平成24年度就業構造基本調査」から、この春社会へ踏み出した若者をとりまく就業状況について調べてみました。

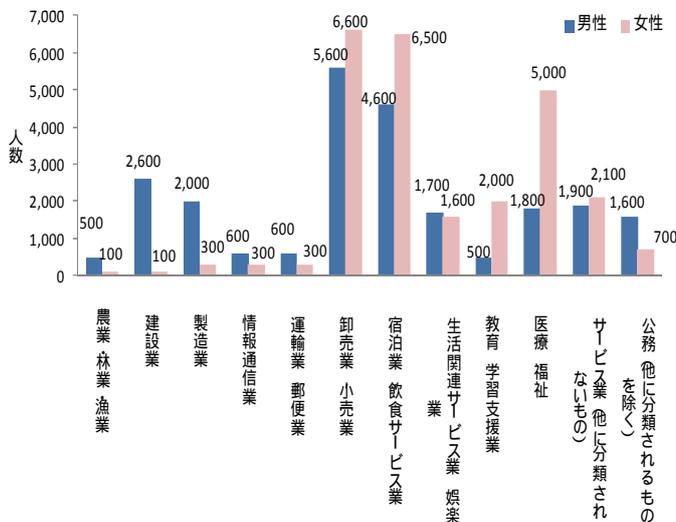
平成24年10月1日現在の若者(15～24歳)の人口は1,228万2千人となっており、うち500万1千人の若者が有業者となっており、有業率は40.7%となっています。沖縄県の状況を見ると、15～24歳の人口が15万7千人となっており、うち卒業者が6万3千人、在学者が9万3千人となっています。就業状態をみると、若者の有業者は5万5千人で、このうち卒業者は4万5千人となっています。県内の有業率をみると、35.6%となっており、うち卒業者の有業率は71.6%となっています。

男女、在学・卒業別若者(15～24歳)人口、有業者数及び有業率 - 平成24年 -

(千人, %, ポイント)

就業状態		15～24歳人口			有業者			有業率		
		人口(a)	卒業者2)(b)	在学者	有業者(c)	卒業者2)(d)	在学者	(c)/(a)	卒業者(d)/(b)	
男女	総数	平成24年	12,281.9	4,491.2	7,775.0	5,000.7	3,697.6	1,293.3	40.7	82.3
	男	平成24年	6,276.5	2,203.9	4,064.1	2,477.6	1,838.9	632.5	39.5	83.4
	女	平成24年	6,005.4	2,287.3	3,710.9	2,523.1	1,858.7	660.8	42.0	81.3
沖縄	総数	平成24年	156.9	63.7	92.9	55.8	45.6	10.0	35.6	71.6
	男	平成24年	79.2	30.7	48.3	26.6	21.5	5.0	33.6	70.0
	女	平成24年	77.6	32.9	44.6	29.1	24.0	5.0	37.5	72.9

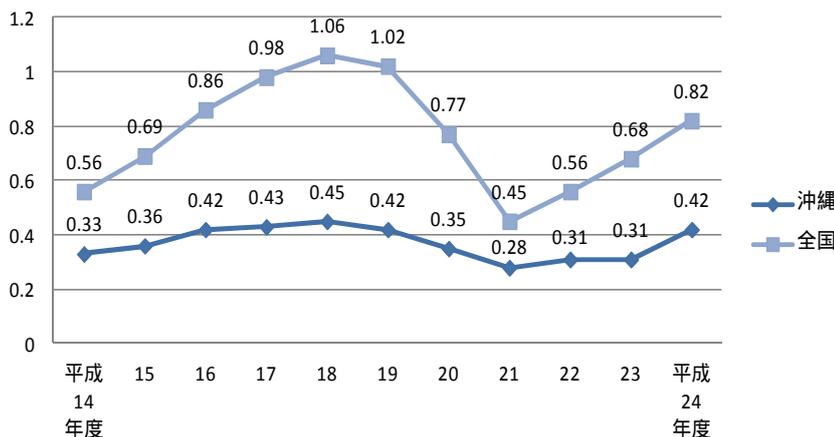
主な産業別若者の有業者数(沖縄)



主な産業別の若者の有業者数を男女別に見てみましょう。男性は、「卸売業、小売業」が5,600人で最も多く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」(4,600人)、「建設業」(2,600人)となっています。

また、女性は「卸売業、小売業」が6,600人で最も多く、次いで「宿泊業、サービス業」(6,500人)、「医療、福祉」(5,000人)などとなっています。特に「医療、福祉」は女性のほうが男性よりも3,200人多くになっている一方、「建設業」では男性のほうが女性よりも2,500人多くなっています。

有効求人倍率の推移



さらに、沖縄県と全国の有効求人倍率の推移をみると、全国、沖縄ともに平成21年度から有効求人倍率は上昇傾向にあることがわかります。しかし、平成24年度の有効求人倍率は全国0.82、沖縄県が0.42と全国の半分程度であり、依然として厳しい雇用環境にあることがうかがえます。全国よりも低い沖縄県の若者の有業率にも影響を与えていると言えそうです。

資料: 沖縄労働局職業安定部「労働市場の動き」

